

第5回 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会要旨

1. 懇談会名称

第5回 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会

2. 開催日時

平成25年5月28日(火) 10:00~12:00

3. 開催場所

広島市役所本庁14階 第7会議室

4. 出席者氏名(敬称略)

(1) 出席者(15名)

間野 博、大東和 武司、塚井 誠人、長谷川 弘、秋野 征治、梶山 正治、國田 晃司、三宅 正昭、大江 英毅、山崎 正志、藤井 豊、柳川 寿子、竹崎 宗一郎、島村泰彰、友道 康仁

(2) 欠席者(1名)

古屋敷 峰予子

5. 議題(公開)

西風新都都市づくり改定計画「活力創造都市“ひろしま西風新都”推進計画2013」(案)について

6. 傍聴人の人数

報道関係者 5社

7. 懇談会資料名

資料 1 市民意見募集の結果について

資料 2-1 西風新都都市づくり改定計画

「活力創造都市“ひろしま西風新都”推進計画2013」(案)の概要について

資料 2-2 「活力創造都市“ひろしま西風新都”推進計画2013」(案)

資料 3 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会での主な意見などの対応について

資料 4 第4回 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会要旨

8. 各出席者の発言要旨

【間野座長】

それではこれから意見交換を行ないたい。

今日は最後の懇談会ということで、一人ずつ順番に意見をいただき、まとめて西風新都整備部の方から、質問の回答などをお願いしたい。

それでは友道さんから順をお願いしたい。

【友道氏】

2、3質問させていただく。全体的に非常によくまとめていただいたのではないかなと感じている。これからより具体化に向けて進みだすことを期待している。

まず1点目の質問は市民意見募集をされたが、これはどのように反映されたか。または具体的な記述のため、今後の具体化の参考にされるのか。そのあたりを教えていただきたい。

それから2点目、私ども区域マスタープランを担当しているものとして、人口フレームの伸びについて、もともと平成32年6万人を平成42年6万7千人と目標年次を変えているが、その辺の前回と今回

の関連性などご説明をいただきたい。

【間野座長】

質問に関する答えは、後でまとめて願います。

【島村氏】

先日現地を見て、こういった新しい団地の開発をこれだけ積極的に、大規模にやっているというのは全国的にも珍しいと思っている。そういう意味で気になったのが市民意見募集の結果にもあるが、団地の高齢化の対策が必要という意見があった。私も非常にそれは大事だと思っている。今、各地で団地の高齢化、高齢タウン化ということが言われており、そういった対応に苦慮している中で、こういった新しく開発を進めていくということになるので、そういう教訓を踏まえた開発を行なっていくということが非常に将来的に問題を起こさないためだけでなく、今そういうニュースを色々聞いてこれから住もうとしている方にとっても、そういう不安を抱えて入ってくるかもしれないので、そういった不安を解消してあげることが、今後、非常に大事ではないかと思っており、そういった部分をどういうふうに考えているのかというご説明をいただきたい。

【竹崎氏】

これまで西風新都都市づくりに大学生としてあまり馴染みがなかったが、全5回を通してだいぶ勉強させていただいた。大学生の立場から、この西風新都の方に商業施設など遊べるところがほしいと考えていたが、計画としてインフラであったり、まだまだ不十分というところで、大塚の通りにも商業施設などの計画があるようだが、もう少し先になるという印象がした。

【間野座長】

感想ということでよろしいか。

【竹崎氏】

はい。質問は特にない。

【塚井氏】

私も住民ではなく、学識の立場でこの委員会に関わらせていただいた。推進計画をここまで細かく作成されたご努力に感謝する。私も色々な意見を見させていただき、またこれまで会議に来られている方々の意見を伺っていて感じたことは、課題の認識が一様ではないということである。課題が非常に多様な一方で、それに対応するのにこの種の推進計画の中で、人口フレームの想定だけで大丈夫なのかということを感じた。今更ながらだが、大枠として少なくとも高齢者の方に関する意見があったが、どの辺りの地区が高齢者の問題を持っているのか、どの辺りの地区が産業の立地の実態を示しているのかについては、これは会議を傍聴された方々や私たちは資料をきちんと見ればわかるけれども、もう少しこの基本計画の中に書き込まれてよいと思う。後半に個別のプランに関してはかなり具体化され、それはタイムスケジュールも示されていて、最初の頃の委員会で申し上げたことを反映していただいていると思う。しかし、議論の俎上に載せるべきであったと、今になって思うのは、もう少し場所場所がどういう特性であったのか、事業者の方が多かったのか、若い方が多かったのか、高齢者が多かったのか、という特徴についてである。特にアストラムラインの両側であるいは石内地区のあたりで特徴がそれぞれ出てくるはずで、地区の特徴というのをもう少し丁寧に見ていく必要があるかもわからない。必ずしもこの基本構想レベルの案で具体的に個別の案を立てていくということではないと思うが、次の詳細なそれぞれの事業化に繋げて行く為に基礎的な情報の整理をお願いしておけばよかったと、反省している。質問ということではなくて、そういうところからデータを踏まえたような素案の作成の仕方ということについて、もう少し配慮すればよかったと自身の反省をこめて感じた。

【大東和氏】

懇談会の性質上ある意味網羅的にならざるをえないかと思う。そのうえで、これからの施策ということで書かれているが、それに地域の住民の方を含むことは当然だとしても、この地域にかかわっている人すべてが結果として対象になっていないのではないか。より具体的にいうと、前回は意見を述べたと思うが、書かれている人口フレームは、定住、つまり住まれている人口のみが対象となっている。都市づくり、まちづくりということになると、この地域に集っている人びとすべてが対象のはずである。この地域に立地している企業で働くということで集う、大学などで学ぶということで集う、あるいは憩いにくるために集うとか、さまざまな形でこの地域に集う人びとがいる。そういうことも考えるとこの人口のところは、いわゆる住む人だけの人口の流れだけでなく、働く人の流れだとか、学ぶ人の流れとか、憩う人の流れとか、そこら辺りをやはり注でもいいので述べておかないと、後の話の脈略が繋がっていかないような気がしている。

【長谷川氏】

感想だが、マスタープランであり、いろんな要素が入ってくることはしょうがないと思う。総花的になってしまったということで、いまひとつここでの特徴、メリハリがもう少しできなかったという気はするが、全体的にはそれぞれみんなアイデアが入っていると思う。それで、活力創造都市が一番のうたい文句だと思うが、活力という点からすると、私などの働いている大学、若い人たちの集う教育の場というのが、地域とどう繋がりがあるかというのが、最近もいろいろと大学改革でも言われており、非常に大事だとこの懇談会に出ながら、いつも思っていた。それで、今回の市民からの意見も色々出てきて、年齢層を見ると20代が2名。おそらく大学生がたくさんいる中で意見を述べたものがいなかった。それから、今日、本学から来ている学生も欠席ということで、大学生からもう少し色んな発案があるとよかったという気がする。大学生はそこで勉強だけをしているのではなく、やはりそこにある都市との結びつきというのが、非常にある年齢層というか、人たちだと思う。今のところ、どうしても広島を中心部に目が向いてしまっており、直ぐ近くに西風新都というまちがある、そこへ目を今ひとつ向けられてないというか、具体的になかなかかなりづらいが、そこで仕掛け作りというか、なにかあって、もちろん情報発信とか、色んな仕掛けも最初の部分は出ているので、今後はその仕掛けをもう少し具体化しながら、ぜひ大学生等の若い力を活力創造というところに、本当に具体的に結びつけられるようになっていったらうれしいと思う。

【秋野氏】

感想と今後の希望ということで話をしたい。これまでに4回の懇談会を実施され、西風新都の都市づくりのインフラ整備とか、それから文化面の整備ということで、色々意見も出され、この程度にまとまっていったと思っている。その間、我々が広島市の西風新都整備部の方々と色々話をしていくのに、非常に熱心に対応していただいた。この場をお借りして、厚く御礼申し上げる。

最後に意見というか希望を言わせていただく。先ほど島村さん、塚井さんの発言にあったように非常に地域の高齢化が進んでいるということで我々もその辺を普段から憂慮しているが、年寄りが医者通いとか買い物に行くのに、どうしても交通が不便だということで色々悩んでいるということがある。これは今からどんどん高齢化が進んでいくので、地域としては避けては通れない問題だと思う。それを今後どのようにするのか。行政、輸送業者、それから地域が色々協議しながら、その問題に取り組まないといけないと思う。ひとつには循環バスを地域で考えていったらどうか。これは予算的なこともあると思う。業者にとっては採算面もあると思う。その辺をみなさんと一緒になって工夫しながら、なんとか実現したいと思う。

今後ともよろしくお願ひしたい。

【梶山氏】

先ほど先生から言われたが、活力創造の都市ということで、色々キャッチフレーズはあるが、11ページの(4)スポーツレクリエーションの振興がある。ここら辺りは現在、逆にサンフレッチェが旧市内のほうへの動きがあるが、今、拠点となっているエディオンスタジアム広島から出て行くことはイベント等に積極的に活用するとともに、国際的、合理的なスポーツ大会など集客力があるものを誘致することとして、ここらあたりを少し考えてもらったらと思う。

(5)「護る」機能、防災力の向上は必要であるが、やはり防犯も合わせたものにしてもらいたい。地元としては、5年前に派出所の設置を、県市にお願ひしたことがあるが、ここら辺りがどうかと思う。

よくまとめられているが、これが将来どういうふうな格好で反映されるのか。よい計画ができて、これを具体的にやっていくには、やはり議会もあるが、広島市の中で都市整備局だけではどうしようもない。関係局と協議され、具体性を持ってやってもらいたい。すべてとは言わないが広島市はたくさん計画はされるが、それで終わりが多し。ここら辺りをよろしくお願ひしたい。

【國田氏】

今まで懇談会が昨年8月から始まったと思うが、その時点を考えてみると経済もどん底であった。その時に始まり考えられたと思うが、その後、12月から今現在まで、大変、経済の発展があつて、皆さんの心も多少違つたように思う。ここら辺りを、西風新都整備部の方も変えてやっているのか、若干心配している。別に悪いというわけではないが、やはり地元は、ある程度、夢を持つことも大切ではないかと思う。その辺りをどのように考えられているか、聞きたい。

【三宅氏】

人口フレームを見ると2030年に6万7千人になっているが、17年間で1万6千人増えており、だいたい年に千人ぐらい増えるという計画になっている。私は地元に住んでおり、こういう話をすると一番皆さんが関心を持つのは、アストラムラインの延伸である。これを早く通してもらいたい。異口同音に言われる。特に希望としては、やはり己斐がいいという希望が強くある。サンフレッチェの件もあるが、アストラムラインが一円になると両方から入ることができ、交通渋滞もかなり緩和できるのではないかと思う。今ではひょっとすると市内の方に移るのではという話があり、一時は賛成で署名に参加した人が、今は逆の人もある。サンフレッチェを残してほしいということで署名をやるという話まで出ており、地元としてはやはりサンフレッチェが逃げてしまうと活気が損なわれるということで、随分、心配している。

そして、今回、新たに医療福祉サービスの充実というのが加わつたが、先ほど秋野さんが言われたように地元には大きな病院がない。これだけ立派な生活環境をもつたところで、世界に誇れるような地域にするという話の中で、住む、憩う、住むのはいいが病院もない、福祉施設も充実してない。それから非常に老人が増え、高齢化が進んでいる。我々の地域の一部には先日も総会があり、町内会の役員をする人がいないということで、またリバイバルで再度登場したというような地域もある。これから5年後にどうなるのだろうか心配している。そういうことを考えると、医療、福祉は切っても切れない部分と思う。この計画を見ると、2030年、今から17年後の計画がほとんどである。もっと短く、5年後10年後で区切つたものの提示があれば住民としては、いつごろにはどういうものができるという安心感を持つんじゃないかなと思う。これから進めるのに大変だと思うが、もっと小刻みに提示していただければ地元民はわかりやすいと思う。

【大江氏】

マスタープランなので、全般的にこの会でやるのは限度かと思うが、そういう意味ではよくできたと思う。その中で石内地区やアストラムラインの話もしたが、その意見も入れられている。ただし気になる点は、先ほども話があったが、やはりこれから先、高齢化の問題は避けて通れない問題だと思う。そういう意味では、この基本的なマスタープランの中にもう少しそういうところに力を入れていただきたいと思った。

【山崎氏】

感想になるが、やはり今、大江さんが言われたように今回の懇談会は、職員さんを事務局として、都市整備局と道路交通局を中心とした内容なので、マスタープラン、アクションプランとしては、精一杯という気はしている。ひとつは松井市長のビジョンがなかなか見えてこないという気がしてならない。例えば、私が前回、素案のときに修正をお願いしたアストラムラインの延伸、この再検討についても苦労の後はよくわかる。これは御礼を言いたい。しかし、平成 11 年、前市長の時代に策定されたアストラムライン西広島駅接続案で本当によいのか。既にもう 13 年経過して、白島新駅もできる。あるいは広島高速 4 号線が平行したかたちで走っている。私たちが主張しているのは街づくりを西の方へ延伸すべきだと、アストラムラインも県西部の五日市、廿日市方面に延伸すべきだということを何回も申し上げてきたが、明確にはこれには載っていないし、トップの意向もよくわからない。そういった背景から広島が世界をあるいは中国四国を牽引するという大きなビジョンを出している以上は、言葉だけでなく実際に実行をしないといけないと思う。私としては、アストラムラインの延伸については、非常に大きな西風新都をこれから形づくる大きなポイントになると思うので、国交省と広島市などで協議会等を設置し方向性について検討していただきたい。

【藤井氏】

私は今回、西風新都に進出した企業を代表して参加させていただいた。まず一番に思うことは大半の企業がいわゆる地元で生まれた企業ではなく、市内、県内、県外、そういったところから、工業団地がつくられて、進出してきた企業が大半である。地域の方から見られると新参者になるが、今回、こうやってこの会に参加させていただき、地域の方とお知り合いになって、また意見を聞かせていただいたということは、やはり我々企業も地域のみなさんとどうやって共生をやってきたかということは非常に大切なことなので、その点については非常に良かったと思う。

今回、例えば、護るというキーワードが出てきたが、これについても企業側として、何か大規模災害があった際にどういうことができるのかということも、これから具体的に頭に入れていながらやっていきたいと思っている。どうしても我々企業は、まず一番に今勤めている会社単位に見る。その次にエリアというか工業団地で見ることになる。どうしてもそこを中心に外へ出ていたり、また外から入ってきたり、通常、日常そういう業務がやっぱりある。そういった中で、やはり市内の中心部とか他のエリアとのインフラのことが一番に企業側では話に出る。具体的に言えば高速 4 号線の話になるが、その辺の声がほとんど出ておらず、意見もあまりなかったことが非常に残念だったと思うが、短い時間の中で、良くまとめられマスタープランとしては非常に良いものができたと思っている。

【柳川氏】

私も同じく企業の代表として、ここに参加させてもらった。たまたま当社はその中心という表現がいか悪いかは別にして、幹線道路に位置しており、本当にここに移転してきて良かったという誇りを実は持っている。開発事業者の西広島開発さんが最近、庭園のまちというふうに名づけられたが、三菱地所が仙台につくった 2000 人ニュータウンを目指して、緑あふれるまちづくりをしようということで、

全面的に打ち出しているエリアにしてみると、とても綺麗なまちになっている。当社の視点からみると西風新都には、すべてがある。働く、学ぶ、住む、その住むの部分で高齢化問題もアクセスの問題もかかえている部分もあれば、こころ団地や花の季台団地は、本当に若い団地である。そういった多様性を持っているところが、とても魅力的だと思うし、また問題も同じように多様性を持って、アストラムラインにしても道路にしても、私が一番お願いしたかったトンネルの料金にしても、個々のことを言っていたら、このマスタープランというのはできないと思っており、マスタープランの作成そのものには、とてもうれしく思っている。そのことと個々の解決というのは、非常に距離があると実感している。しかし方向としていいまちにしていこうと市をあげて取り組んでおられることに感謝している。

【間野座長】

一当りみなさんそれぞれ意見、質問を答えていただいた。質問だけでもたくさんあった。西風新都整備部の方から発言をお願いする。

【西風新都整備部】

まずご質問について総括的な回答になるかと思うが、お答えさせていただく。

市民意見の反映の方法について、今回提出された意見の中で、最終的には計画に反映するもの、既に盛り込まれているもの、今後、実施の段階で検討するものという形で、今回の意見を含めて分類した上で公表したいと思う。今後、実施の段階で反映していくというのが大部分になると思う。特に今回の市民意見の中で具体的に反映しているのは、例えば福祉施設の充実の記載が少ないといったところを盛り込んでいる。その点についてはまたきちんと公表していきたいと思う。

人口フレームの話について、今回の推計の仕方は、基本には平成 42 年、2030 年で今、現実的な開発がどこにあるのか。まずは人口フレームの中で見定めた上で、それについては計画的に人口に盛り込んでいる。それ以外は広島市の人口トレンドを引用し、それ以外のところに当てはめるということで推計している。詳細な説明は個別にさせてもらいたい。

全般的に出た高齢者問題について、確かに今、団地の高齢化の問題については、また別の部署で、間野先生も参加され団地の活性化研究会で議論していくことになり、私ども西風新都整備部もその研究会の中で、西風新都の中の立場として参加して、団地の高齢化問題について検討していきたいと考えている。そういう中で、西風新都というのは先ほど話があったように花の季台やこころなどは新しい団地で、五月が丘や藤興園、下城ハイツなど以前からの団地もある。いろいろな団地が混在した中で、当面、課題をきちんと整理した上で対応していく必要があると思っており、例えば、当面、高齢化が直面しているような団地に対しては、その活性化研究会の中で議論した上で、どういう形でやっていくかについて検討していくこともあろうし、また将来の予備軍になるこころや花の季台については、例えば、今回の交通のスマート化が将来の交通対策のひとつになるのではないかと考えており、単に今、直面する高齢化の問題もあるが、将来の高齢化に対してもなにか先手を打って考えていく必要があるのではないかと考えており、その点も含めてトータルで西風新都は当面考えていきたいと思っている。

アストラムラインの延伸についてのご意見について山崎さんが言われたように平成 11 年当時から言う状況が変わっているということがある。西風新都の人口、周辺の開発動向、ネットワークの状況も変わっている。今後、担当部署において、そういったところを踏まえ、アストラムライン延伸事業の基本方針を決定していく中で、こういった形で進むかということのを再整理することになるかと思う。

それと例えば、情報発信。これも懇談会が始まった時から西風新都のエリアかどこなのかというような話もあったが、西風新都の地区の方でもエリアを理解されていないということもあった。また、今回

のような大学や地域の方、地域の方でも以前から住まれていた方と新しく入ってこられた方、企業の方、それぞれいろいろ多様な関係がある中で、情報発信というところが市として抜けていたと考えている。それは単に一方的に情報発信するだけでなく、それぞれがどういうことを行なっているかということも含め発信することによって、その情報交流が活発化していった上で、それをまた西風新都の全体の力として外に発信していくような形で、なにかできないかということで、これは真剣に考えていきたいと思っている。

それと最初のスタートは景気が悪い中で、また政権が変わったりし、また状況が変わってきたということで、当然、時代を反映したもので考えていかななくてはいけないということについては、それを瞬時にマスタープランにおり込んでいくのか、ということもあるかと思う。今回 2030 年というひとつの目標を見定めて、そこにマスタープランということで、その時代で事業実施していく中で、それを具体的にやはり整備の仕方もあろうし、住民ニーズも変わってくる中で、どういう整備が適切かということは当然、市民意見の中にもあったように様々なことが考えられると思うので、それは実施の中で具体的に適宜、適切に変えていきながら進めていければと思っている。

【間野座長】

西風新都整備部から、質問の答えをしてもらったが私の質問に対しては答えてないなどあるか。

【三宅氏】

2030 年の 6 万 7 千人の予測について、この時の年齢比率、例えば、60 歳以上がどのくらいなのか、40 歳までがどのくらいなのか教えていただきたい。それと一世帯何人で算出したのか。逆算すると 5 千から 6 千世帯増えないと 1 万 6 千人の人口増はないと思う。そうすると先ほど、箕田課長が言われたがどの団地で開発が進むと何世帯くらいできるのか、ということだろうと思う。したがって、線はこうなっているが、ある年代で急に増えたり、それから停滞したりがあってこの 6 万 7 千人の人口増を予測していると思う。私が気になるのは、二極分化しているということ。ある団地は 30 年前にできた団地でもうほとんど住民が 60 歳以上、新しくできた団地は若い人ばかり小学生の子どもが多いということで、沼田の小学校は今度、3 階建てのビルを増築するが、それは花の季台の団地ができて 700 人、人口増になり、そこから一気に小学生が増えた。5 年後にはこれがまた空になる。小学校の 4 割がその団地の人になる。したがって、年代によってはものすごく格差が出ると思う。6 万 7 千人の人口になった時に、例えば、60 歳以上の方が 3 割なり、あるいはもっと 4 割にいくかもわからない。そうすると本当に医療とか福祉が重要課題になってくると思う。算出の数字がありましたら教えていただきたい。

【西風新都整備部】

申し訳ないが、現在、詳しい数字を持ち合わせていない。基本的な人口推計の考え方は、今、計画中でこれから開発する開発地区については、計画の世帯数に対して、世帯の標準、世帯人数、2 から 3 の間くらいの数字だったと思うが、その数字を掛け合わせた将来の開発事業者の分譲スケジュールにある程度沿った形で推計している。それ以外の市街地については、コーホート法で推計している広島市全体のトレンドを適用している。市内のトレンドは、平成 27 年に上限になり、そこから徐々に減少していくという形になるが、このトレンドを反映させて推計している。

【三宅氏】

グラフにある 2012 年 50,568 人の時の世帯数はいくらか。

【西風新都整備部】

基本的に住民基本台帳での算出した人口、世帯数である。後ほどご報告させていただく。

【間野座長】

他の方、いかがか。

【山崎氏】

パブリックコメントについては、ブレイクダウンした細かい内容はホームページで公開するというところで市民のみなさんに見ていただくということでしょうか。

【西風新都整備部】

この改定計画の公表に合わせて市民意見募集の結果ということで、要約になるが、各個別にある程度まとめて、もう少し具体的にホームページ等で公表するように考えている。

【山崎氏】

アクションプラン 26 ページ都市交通の円滑化の道路整備について、前回、素案の時と順序がちょっと違っているが何か意味があるのか。善當寺工区、梶毛南工区、梶毛西工区、順番が入れ替わっている。

【西風新都整備部】

順番が入れ替わっているが内容は変わっていない。なぜ善當寺工区を A、B、C の A に変えたのか、梶毛南工区を B に変えたのかということについて、事務的な話になるが、善當寺工区は、すでに地元の方もご存知のように既に事業のスタートをしている部分があることから最初にかかせていただいている。梶毛南工区については、これから全線にわたって計画策定を今年度したうえで来年度から事業着手に入りたいということで書かせてもらっている。内容的には変わっていない。

【間野座長】

他にはよろしいか。

【塚井氏】

今回のプランということではなく、こういう例があるかを伺いたい。色々なご意見が出てきたと思うが、マスタープランを考える時に管理指標、計画の再策定に対する引き金になるような、これは私も不勉強で、例えば、経営に係るような話であれば、この指標が悪化すればどうするのか、この時にどういうことをするのか、あるいは具体的に何をするかというのは、当然、今考えても読めないため、細かく書けないが、もう見直しはするべきだとなる。例えば、役員を交代し人事を刷新し会社の経営を立て直す。そういうことをするが、まちづくりに関して全般の議論を伺っていると、それが必要ではないかという気がしてきている。高齢化率がよいのか、道路交通量がよいのか、バスの運営実績がよいのか、あらゆる計画の見直しの時に色々な数値的な指標、もちろんそのビジョンとかプランというのはそれだけに縛られるものではないので、これはあくまでも何かを議論し始める時のきっかけになるような数字だと思うが、それを定めておいてもよいと思った。マスタープランとはいえ、そこまできちきちと指標に注意しながら見ていくというような書き方をしたものを私はあまり見たことがない。その 2 点、もし西風新都だけでなく広島市でお持ちでしたらお聞かせ願いたい。

【間野座長】

いかがか。

【西風新都整備部】

プログラムの部分の評価だと思うが、行政が事業を進めていく場合でもその評価は非常に大事で、いつまでにどこまで達成するのか、具体的なものを盛り込めるか、ということだと思う。他事例で言えば、書き込んでいる事例もある。例えば、将来、何年度までにその事業を完了させる。公共交通とかで言えば、何年度までに利用者数を 1.5 倍、1.1 倍、減少しないようになど、そういう指標はある。それを書き込むというのにも必要だと思うが、今回は主体的にできるのが道路なので、例えば道路の中でいつ

までにどこまで完成させるというのは、プログラムの中でできる範囲のものを今回示させていただいた。それを、今年度事業の検討していく中で、もう少し詳しく定めていったうえで、善當寺工区については常に言われていることで、いつまでにどこを完成させるか、目標を守るようにと言われており、今年度、まず絵を描いて、これでどれくらいの事業のボリュームになっていくかということや課題がどういうところに出てくるのか精査した上でそういうものを立てていければと思っている。

【塚井氏】

要するにこの種の計画は健康診断だと思う。経営指標でもあり、健全性の指標でもある。別に高齢化率が高いから不健全ということではなく、例えば、誰でも、去年健康診断をして、今年健康診断をして急に体重が増えたり、急に血圧が上がったりすると少し注意しなくては、と感じるのと同じであって、多少数値が悪化しただけであれば概ね現状維持でよく、慌てて大きな対策をとる必要はない。

先ほどの発言があまり明瞭ではなかったので、少し補足したい。管理指標と申し上げたのは、その指標の数値のレベルを決めてそれが達成できないから即どうということではなく、どの指標に注意を払うべきかという意味で申し上げた。今回、一連の議論を伺いながら、自分は当初、場所のことで混乱していたため、課題と場所の関連性を明示することをお願いした。次に先ほど多様と申し上げた課題の中には、高齢化率の話もあり、交通の問題もある。このマスタープラン、この道路の計画を中心とした計画の中では当然、道路関連の部局が計画を担当することが一番扱いやすいとは思いますが、最初に出していただいた人口フレームもまた非常に大事な指標である。できればその高齢化率が全体でどういうトレンドになっていきそうなのか、あるいはどの時点でその問題が顕著になるのか、貨物の交通が問題になるのはどの時点なのか、などの点について、具体的にこれを下回ったらどうというレベルまでいなくても、もう少し計画に書き込まれている形が今思えばよかったのかと思うが、ただあまり前例がある話ではないと思われるので事務局にお任せしたい。繰り返しになるが数値目標を定めることがなにより大事だといような性質の議論ではないと思う。今回は様々な数値が初回数回の議論であげられていたが、取りまとめられた計画の中では数値的が明示された指標は人口フレームのみである。数値を示さずとも注意すべき指標をどのぐらい整理できるか、などは難しいとは思いますが感想として言わせてもらう。

【長谷川氏】

最後に私の思いというか、問い合わせになるかもしれない。これを一生懸命やってくれた行政側には若干無礼な言いぶりになるかもしれないが、この計画づくりを拝見させてもらって、道路整備計画という印象が強すぎると思っていた。これを担当している西風新都整備部の機能というか中身がどうなのかわからないが、先ほど箕田課長から主体的にできるのが道路だと言われた部分があり、これは総合的なマスタープラン、まちづくりプランとはいいながら、なかなか道路以外のところにはタッチできないのかと思った。これは縦割りなのかと思ったり、そうすると、ここでうたっている、住む、働く、学ぶ、護る、憩うの中の道路の部分しか先行してできないのではないのか。大丈夫かと。無礼な意味もあるかもしれない。そこから私の懸念としてはオール広島として取り掛からないと、こういったマスタープラン、まちづくりはできないことであり、たまたま推進役が道路整備の方かもしれないが、本当は5つの機能をきちっとやっていくには縦割りのところをはずしながら、他の部署とも互いに協力しながらやっていくというところをもう少しださないと、いつまでたっても道路づくりとかアストラムの延伸とかいう話だけで終わってしまう。それこそ先ほど私が言ったように教育の話などにはいつまでたっても結びつかないのでは、という気がした。

【間野座長】

はい。感想ということで。他にはよろしいか。

【西風新都整備部】

先ほどの三宅委員からご質問の世帯数について、平成25年4月現在で西風新都内の居住人口が51,793人となっており、世帯数は19,599世帯になっている。1世帯あたりの人数に割り戻すと現在は西風新都全体で2.6人という数字になっている。

【三宅氏】

6万7千人になったら1世帯あたりの人数はいくらか。

【西風新都整備部】

6万7千人のときの1世帯あたりの世帯数は、2.2である。

【三宅氏】

2.2というと夫婦2人が9世帯で若い世帯、子ども2人の4人が1世帯になる。それはいいのではないかと。絶対ない。新しく入られる世帯で夫婦2人の世帯が9世帯で、若い子ども2人連れの世帯が1世帯ではじめて2.2。そんなことはない。

【西風新都整備部】

2.2という数字だが、今、2030年までの推計する上で、平均値ということで、お示ししたが、基本的に計算で使っているのは、2.3の1世帯辺り平均人員から、世帯が張り付いて、例えば、子どもが外に出て行くとかいうことも考慮し年次別にその世帯数が減少していく計算にしており、それが2030年で延べていくと、今、2.2と申し上げたが2.199という平均の数字という計算になっている。

【梶山氏】

要は、高齢化したら世帯の人数がどうしても減る。そこらを考慮しているのではないかと。

【三宅氏】

夫婦でもうひとり住まいの人が増えるということか。

【梶山氏】

そうである。そうすると2.2ぐらいになるのではないかと。

【三宅氏】

例えば、新しい団地ができて10世帯入るとする。10軒家が建って、10世帯の内、夫婦2人だけの世帯が9で、子ども2人連れの4人家族が1つ入ったら、2.2になる。そんなことはないと思う。これ以上はよい。

【間野座長】

よろしいか。要はその値について、先ほど塚井先生の話にもあったように、綿密に組み立ててつくられたわけでは必ずしもないということである。

【三宅氏】

人口が一番、基本ではないか。

【間野座長】

その基本から出発して、この計画の中身がきちんと組み立てられているかということ、そうではないところがあるかと思う。そういう点ではこの計画の限界があると思わざるをえないということではある。期待みたいなものもあり、いろいろなものが取り混ぜてできたマスタープランだと思う。そういう意味では、長谷川先生が言われたように正確な意味でのマスタープランといえるかどうかというのは疑問があるような気がする。この辺りでよろしいか。

【西風新都整備部】

今の人口についてもう一回わかりやすく説明できるよう、例えば、この本編ではなく資料編の中で表

現していくとか、例えば、最初の懇談会で人口のトレンドをご説明しているの、そういったデータを補足資料的なものとして入れていきたいと思う。

今、不十分な説明だったのでその辺りはやっていきたいと思う。

また、長谷川先生からもあったように、当然、市を挙げて全体で取り組んでいかなくてはいけないことなので、その舵取りというのは、なかなかどこがというのは難しいが、西風新都のエリアの中のことであれば、まずは当部が主体的に考えて、それを様々な意見があったことに対して、関係部署に説明したうえで、当然、西風新都だけ優先するというのは全市的なところを考える部署からすると難しいかと思うが、西風新都はこういう特化したようなことが公表されている中で、成り立っている部分なのでそういうところも含めて窓口になって、この計画をきちんと進められるように考えていきたい。

【間野座長】

データに関しては、データを整理してこの計画の中に盛り込むということになるとかなり計画内容が見直されるという話になる。本日最後の懇談会だが、どうするつもりなのか。

【西風新都整備部】

今の説明の仕方はまずかったと思うが、最初の懇談会の中で出した資料など今の人口データを補足資料という形で取りまとめようということである。その中で人口についても、トレンドがわかるような形で、補足資料にさせてもらえればと思っている。

【間野座長】

資料編として、これまで懇談会で出されたような節があった。それを資料編として、まとめる。それに基づいてどうこうなるということはないということではいいか。

【梶山氏】

ちょっと最後をお願いしたい。

【間野座長】

どうぞ。

【梶山氏】

折角、良いものができても、これに関係ある先生方、議員の方に理解を得てもらおうようにしないと、職員のみなさんだけで一生懸命頑張っても難しい面もあると思うのでよろしくをお願いしたい。

【間野座長】

これは要望ということで受け止めておきたいと思う。

それでは、ひと通りいい意見をいただきましたのでこちら辺でまとめたいと思う。いずれにしても今日出た意見については西風新都整備部の方で受けていただき、今後の改定計画の策定にも参考にさせていただければと思う。

これにて懇談会の議論は終わりたいと思う。